

FOMCを受けての日米株式・リート市場

利上げ打ち止めの早期化を市場は期待している模様

2023年2月2日

想定通りの利上げ幅縮小で、米国の株式・リートは上昇

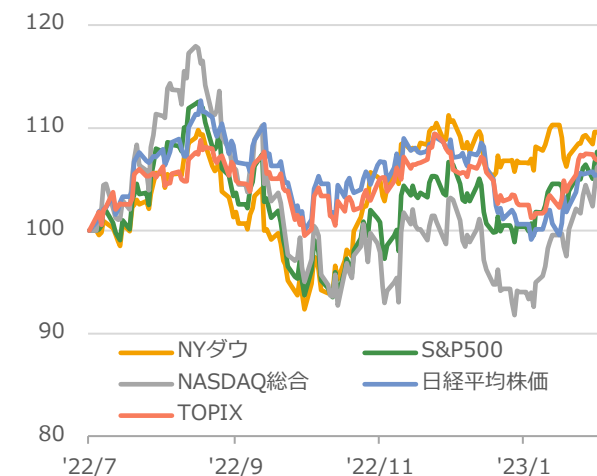
FRB（米国連邦準備制度理事会）は1月31日～2月1日（現地）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利の誘導目標レンジを4.25～4.5%から4.5～4.75%へ引き上げることを決定しました。利上げ幅は、前々回（11月）が0.75%ポイント、前回（12月）が0.5%ポイント、今回が0.25%ポイントと、順次縮小しています。

結果発表直後、米国株は一時下落しました。利上げ幅縮小を先回りして織り込む形で年初から株価が上昇していたため、いったん反動が出たとみられます。しかし、その後は上昇に転じて取引を終えました。声明文やパウエルFRB議長の記者会見で、最近のインフレ鈍化に言及した点を、市場参加者は利上げ打ち止めへ向けて前進していると解釈し、好感したようです。今後もインフレ鈍化が進めば株価の上昇要因になるとみられますが、景気の減速が行き過ぎないかには一定の注意を払う必要がありそうです。日本株は、米国株の変動要因に加え、次期日銀総裁に誰が選ばれるかが、しばらく注目されそうです。

米国リートも、結果発表直後に下落しましたが、その後上昇に転じました。米国リートは今年に入り戻り歩調を強めています。株価上昇と長期金利低下の両面が、米国リートの支援材料になっているとみられます。一方、日本のリートは、日銀による金融緩和策修正の思惑で足元は上値が重くなっています。次期日銀総裁が決定し、政策の不透明感が後退するのを待つ局面と思われます。

日米主要株価指数

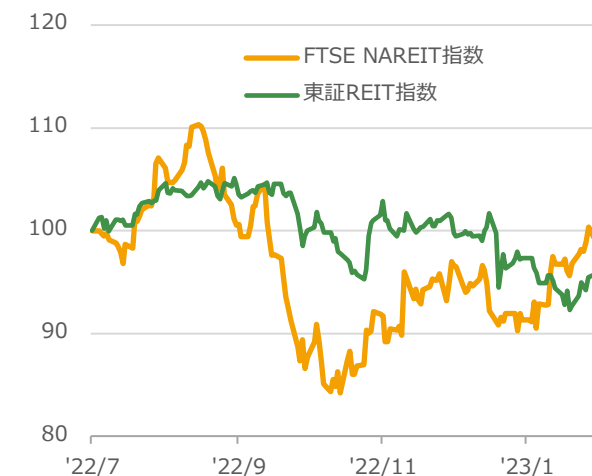
(2022年7月初～2023年2月1日)



(出所) ブルームバーグ

日米リート指数

(2022年7月初～2023年2月1日)



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management